

2017年10月6日

タンザニア研修報告書

京都市動物園 種の保存展示課

(担当:瀬尾良太, 土佐祐輔)

2017年9月13日から2017年9月22日の10日間にかけて、下記の通り、タンザニアのゴンベ・ストリーム国立公園及びルアハ国立公園にて、野生動物および生息環境の視察を行ったので報告する。

1 参加者

戸田克之 (愛知県富山市)

湯本貴和 (京都大学霊長類研究所)

兼子明久 (京都大学霊長類研究所)

木村直人 (日本モンキーセンター)

江藤彩子 (日本モンキーセンター)

Nachiketha Sharma Ramamurthy (京都大学野生動物研究センター)

佐藤侑太郎 (京都大学大学院理学研究科)

横山実玖歩 (京都大学)

三浦砂織 (タンザニア ザンジバル)

瀬尾亮太 (京都市動物園)

土佐祐輔 (京都市動物園)

計 11 名※敬称略

同行者:仲澤伸子 (京都大学理学研究科 人類進化論研究室)

2 日程

9月13日 (水) 第1日目

21:00 関西空港4階 エミレーツ航空前集合 搭乗手続き

23:45 エミレーツ航空 EK317 便にてドバイへ向け出発 (所要時間: 10時間5分)

9月14日 (木) 第2日目

04:50 ドバイ到着 乗換え

10:25 エミレーツ航空 EK725 便にてダルエスサラームへ向け出発
(所要時間: 5時間25分)

14:50 ダルエスサラーム着 入国審査・通関後到着出口へ

19:00 オリエンテーション カリブ (歓迎) 夕食会

9月15日（金）第3日目

04:00 ホテル発 空港へ送迎
06:00 エアタンザニア TC118 便にてダルエスサラーム発
08:10 キゴマ着
12:00 Lake Tanganyika Hotel にて昼食
14:00 ボートにてキゴマ発
17:00 ゴンベ着

9月16日（土）第4日目

08:00 チンパンジー・トレッキング
午後 近隣村落あるいは Jane Goodall 記念館訪問

9月17日（日）第5日目

08:00 チンパンジー・トレッキング
13:00 Jane Goodall 記念館訪問
14:30 ゴンベ発 ボートにてキゴマへ
17:00 キゴマ着

9月18日（月）第6日目

午前 タンガニーカ湖野鳥観察
14:00 TC119 便にてキゴマ発 ダルエスサラームへ
16:40 ダルエスサラーム着

9月19日（火）第7日目

06:00 ホテル発 空港へ
07:30 空港着
08:30 コースタル航空にてダルエスサラーム発 ルアハへ
11:00 ルアハ到着 昼食及びゲームドライブ
17:00 キャンプにチェックイン

9月20日（水）第8日目

06:30 ゲームドライブ
11:45 コースタル航空にてルアハ発 ダルエスサラームへ
13:50 ダルエスサラーム着 ホテルへ
19:00 クワヘリ（さよなら）夕食会

9月21日（木）第9日目

08:30 チェックアウト後、ホテル出発

09:00 ダルエスサラーム市内観光 ティンガティンガ村、スリップウェイで買い物など

12:00 空港へ

16:45 エミレーツ航空 EK726 便にてダルエスサラーム発 空路ドバイへ
(所要時間：5時間35分)

23:20 ドバイ到着 乗換え

9月22日（金）第10日目

03:00 エミレーツ EK316 便にてドバイ発 関西空港へ (所要時間：9時間10分)

17:10 関西空港着 入国審査・通関後到着ロビーへ 解散

※時刻はすべて現地時間。日本との時差は UAE で-5時間、タンザニアで-6時間。

3 訪問地



(1) ゴンベ・ストリーム国立公園

- タンガニーカ湖の北側の湖畔にある、タンザニア最小の国立公園
- 動物行動学者 Jane Goodall が、チンパンジーの研究を始めた地として有名
- 北部、中央部及び南部にチンパンジーの集団が生息し、中央部の集団のみ観察可能

- チンパンジーのほか、アカコロブス、アカオザル、ブルーモンキー等が生息

(2) ルアハ国立公園

- タンザニア最大、アフリカでも2番目に広大な面積を持つ国立公園
- セレンゲティ等北部サーキットと異なり、南部アフリカに連なる景観をもつ
- 見られる動物相も異なり、ローン、セーブル及びリカオンなどが特色
- ルアハ川に沿っているため、カバ、ワニ及び水鳥が多く、ゾウの密度も高い

4 謝辞

本研修は、京都大学野生動物研究センター、および京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院の支援を受けて行われた。京都市と京都大学との「野生動物保全に関する研究と教育の連携協定」に基づいて2009年から毎年実施されているものであり、ここに厚く謝意を表したい。また、財政的には日本学術振興会の科学研究費補助金 特別推進研究（代表：松沢哲郎 京都大学特別教授，Nos. 20002001, 24000001, 16H06283）により一部支援を受けて実施されている。

5 所感

今回の研修では、タンザニアにあるゴンベ国立公園およびルアハ国立公園を訪れ、野生動物たちを観察するとともに、彼らが生活している環境を直に体験することができた。

ゴンベ国立公園では、森の中に住むチンパンジーの観察を行った。ゴンベ国立公園は、湖畔に広がる森林であり、乾季でも緑豊かな環境であった。2日間の観察で出会ったチンパンジーたちはいずれも1～4頭程度の小さな集団で、グルーミングをする様子や樹上で寝そべる姿などを観察することができた。また、チンパンジーの道具使用行動として有名なシロアリ釣りも間近で観察することができた。

ルアハ国立公園では、サバンナに住む多くの種類の動物を観察することができた。ルアハ国立公園は、まさに乾季という環境であった。緑はほとんどなく、河も干上がり、乾ききった大地が広がっていた。ゴンベ国立公園との環境の差に驚いたとともに、チンパンジーの生息する豊かな森林地帯がとても貴重なものであることを痛感した。ルアハ国立公園では、キリンやシマウマ、カバ、アフリカゾウなど、動物園でもおなじみの動物たちが悠々と暮らしていた。特に、アフリカゾウは生息密度が高いようで、出くわす機会が多かった。観察できた群れは、いずれも5～10頭程度の群れで、子ゾウや若いゾウも確認できたので、定期的に繁殖している様子であった。狭い日陰に集団でかたまっている様子や地中に残っている水を飲むために、干上がった河に穴を掘って水を吸い出す行動など、興味深い行動を観察することができた。

2つの国立公園をめぐる様々な野生動物を観察できたことは、動物園の飼育員としてとても良い経験であり、学ぶことが多くあった。特に、動物たちの生息環境を自分の肌

で体感できたことは、動物園での様子や図鑑の写真などでしかアフリカの動物を知らなかった私にとって、貴重な経験であった。例えば、乾季という季節は、言葉や情報では知っていたが、その温湿度環境を直接肌で感じることは初めてだった。私が動物園で担当しているアフリカ産リクガメの展示室では、冬に乾季の再現を試みているが、この環境を再現する際に今回の経験を活かしたい。実際に観察できた動物種の中には、私の担当している種はいなかったが、チンパンジーやキリン、シマウマなどの動物種については、いずれ担当をすることになる。その時には、今回の研修の経験も飼育管理に活かしていきたい。

また、動物園の役割や飼育員としての役目についても考えさせられることが多くあった。動物園での仕事は動物を飼育するだけではなく、掲示物や動物ガイドなどを通じて、多くの来園者に動物の紹介をする仕事もある。これまで、私が動物ガイドなどをする際は、目の前にいる動物に興味を持ってもらうことだけを考えた解説を行ってきた。もちろん、これは間違っていないし、大切なことである。だが、今回の研修で実際に野生動物たちを見ながら感じたことは、動物園が野生動物を守るためにある施設であるならば、動物園にいる動物種の野生の姿や状況を伝える解説が必要であるということだ。当たり前のことではあるのだが、これまでの私はこうした意識が低かった。動物園にいる個体に興味を持ってもらい、それをきっかけに、野生での彼らがどのような状況なのか、そしてどう守っていけばよいのかを知ってもらう。こうした役割が、私の大事な役目なのだ気付かされた。今後は、まず、動物たちの野生での状況に関する情報を勉強し、少しでも来園者に伝えられるように努力していきたい。

今回の研修では、アフリカの動物だけではなく、それを取り巻く環境や文化などについても非常に勉強になること、気付かされることが多くあった。このような素晴らしい機会を頂きました京都市役所および京都大学に深く感謝いたします。

(瀬尾)

今回のタンザニア研修では、ゴンベ・ストリーム国立公園及びルアハ国立公園を訪れた。

このうちゴンベ・ストリーム公園は、毎年タンザニア研修で訪問する場所である。9月16日には、湖岸線を歩いて上記哺乳類を観察しながら低地の森へ移動した。森ではチンパンジーの母子小集団の観察を行い、シロアリ釣りの様子などを間近で観察した。9月17日にはチンパンジーを追って山道を登った。途中でいくつかの母子集団と遭遇したほか、山頂ではアルファオス個体を含む男系集団を観察することができた。

ルアハ国立公園での研修は今年が初となる。ルアハはアフリカ南部寄りの生物相を持つ水辺の国立公園であるため、大量のゾウなど、前年度までの研修ではあまり観察できなかった野生動物を見ることができた。

今回の研修では、多種のエキゾチックアニマルの、野生下での生態を観察した。研修

を通じ、これら野生下観察と比較した場合の動物園等の利点を再認識することができた。以下に簡単に述べたい。

第一に、動物園の訪れやすさは、最も大きな魅力であることを再発見した。今回、動物たちの野生の姿を見れたことはとても意義深い経験であった。しかし、そのためにタンザニアまで国際線を乗り継いで 21 時間、ゴンベ・ストリーム国立公園まで飛行機と船を乗り継いで 5 時間、山頂のチンパンジー観察スポットまで急坂な斜面を 5 時間、あるいはルアハ国立公園までセスナ機で 2 時間及び車で 5 時間かけて移動しなくてはならなかった。これは、万人に可能なことではない。これに比較すれば、動物園にはすぐに行くことができるという明らかなメリットがある。特に、同行した他動物園職員からも指摘されたことであるが、京都市動物園は都市中心部から公共交通機関を利用して 30 分以内に訪れることができるという、大きなアドバンテージがある。




次いで、動物園では一通りの動物を確実に見られるという点も大きな魅力であろう。ルアハ国立公園でのサファリツアーは車で巡る便利なものであったが、天候に恵まれ双眼鏡など十分な装備を整えたとしても、望む動物を見ることができるとは限らない。今回のサファリでは経験豊富なガイドの案内を受けることができたが、リカオンやハイエナ、チーターなどを見ることは叶わなかった。翻って、行けば展示動物を必ず見ることができる点は、動物園における大きな魅力であるといえる。

最後に、動物園では文章による解説が可能な点も重要である。ゴンベ・ストリーム国立公園では地元ガイドによる案内を受けたが、レッドコロブスモンキーとレッドテールモンキーを混同して解説するなど錯誤があった。また、ルアハ国立公園においては、動物の種名を教わることはできたが、詳しい生態などは時間の都合から解説を受けることができず、やや物足りない印象を受けた。比較して、動物園では動物の概要や特徴、生態などについて展示場所の付近に説明を記している。これは社会的には当然のこととして認識されているが、教育上とても重要な情報である。来園者に動物を見せレクリエーションとして楽しませるだけでなく、その背景にある生物学的知識にまで興味を抱かせることができるのは、動物園だからこそできることである。

以上、生息地域に訪れる場合と比較したときの動物園の魅力は、アクセスのしやすさ、動物を見ることができるといえる。今後、例えば情報揭示物をより充実させ更新速度を速めるなどして、これらの強みをより伸ばす工夫をしていきたいと思う。

最後になったが、今回タンザニア研修に参加させていただき、貴重な経験を得ることができた。機会を与えてくださった京都大学及び京都市役所に大きな感謝を述べさせていただきたい。

(土佐)

<p>ヒガシチンパンジー (<i>Pan troglodytes schweinfurthii</i>)</p>	<p>カバ (<i>Hippopotamus amphibius</i>)</p>	<p>マサイキリン (<i>Giraffa camelopardalis tippelskirchi</i>)</p>
		
<p>サバンナゾウ (<i>Loxodonta africana</i>)</p>	<p>アフリカスイギュウ (<i>Syncerus caffer</i>)</p>	<p>マサイライオン (<i>Panthera leo massaicus</i>)</p>
